

2025（令和7）年度 研究報告

附属幼稚園竹早園舎

1. 今年度の研究

竹早地区附属学校園での幼小中の連携研究では「未来を切り拓く子どもの主体性が活きる学び」というテーマのもとに研究に取り組んできた。今年度、幼稚園実践分科会は、昨年度の成果と課題を踏まえて、デジタル保育記録を活用した保育実践について研究を進めた。附属学校研究会では、「附属幼稚園と学生をつなぐプログラムの再構築」という新しいテーマで、小金井園舎の教員や大学教員とともに研究を進めた。

2. 幼小中連携研究 幼稚園実践部会の取り組み

これまで、保育記録のデジタル化に取り組み、子どもの名前や教材名などのハッシュタグ（#）をつけ、検索機能と合わせて使うことができるようにしてきた。今年度は幼小中共通の「主体性を捉える視点」でハッシュタグをつけ、検索機能を用いて振り返った。記録の振り返りをもとに対象児を抽出し、対象児の主体性や教師の手立てについて取り出して検討した。検討を踏まえて教師の手立てを見直し、保育実践に活かすことを試みた。11月の公開研究会では、5歳児学年の保育を公開した。公開保育及び協議会には52名の参加があり、さまざまな感想や意見を得ることができた。また、主体性を捉える視点については小中学校と同じ視点でハッシュタグをつけることは幼児期の段階では難しいという課題から、それに繋がっていく視点について検討することに取り組んだ。

3. 実践研究

（1）活動研（幼小校内研究会）

4歳児学年の保育を幼稚園教員と小学校教員が参観し、「幼児期における遊びのきっかけと広がりとそれを支える教師の援助」をテーマに子どもの姿や教師の援助について協議した。文京区立幼稚園や小金井園舎、大学関係者の参加者もあり、多数の目で子どもの姿を捉えることができた。また、講師として、共立女子大学の田代幸代先生にご指導いただいた。幼稚園教員と小学校教員と一緒に協議することで、幼児期の特徴や小学校教育へつながる姿を共有することができた。

4. 成果と課題

今年度は、デジタル保育記録を保育実践に活かすことに取り組めたことが大きな成果の1つである。検索機能を有効に使うためのハッシュタグのつけ方を検討し、日々の記録の残し方を工夫することで、より保育記録を活用できるようになった。記録を振り返り、個々の育ちを捉え、幼児の主体性や教師の手立てについて検討することを通して、デジタル保育記録の利便性を実感できた。今後も、保育の質を高めるための記録について、どのように改善するとよいか、どのようにデジタル保育記録を活用できるのかについて考え続けていきたい。

幼小研究では、幼小の教員で活動を見合ったり、協議をしたりすることを通して幼稚園の活動の中心である遊びと小学校で行われる自己実現活動とのつながりについて理解を深めたい。